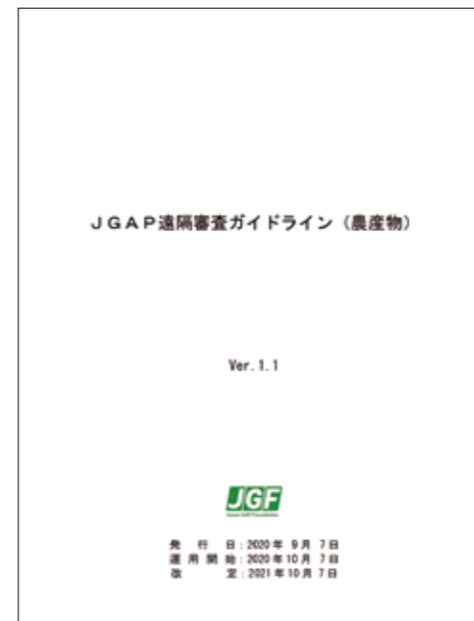


訓子府実証農場でのJGAPの取り組み

ホクレン訓子府実証農場農産技術課は、JGAPの取得・維持に当たり必要な手続きや設備、各審査を通じた確認ポイントなどに関する情報を得るため、2018年からJGAPに取り組み、野菜栽培（ほうれんそう）でのJGAP個別認証を取得しています。

今回はコロナ禍における審査方法として、一般財団法人日本GAP協会にて、2020年10月より運用開始となった「JGAP遠隔審査ガイドライン（農産物）」※に基づき、維持審査を遠隔審査で受審しましたので、現地審査との違いについてご紹介します。



※JGAP 遠隔審査ガイドライン（農産物）
<https://jgap.jp/uploads/media/xopEjcgVAA>

CLIP 04

JGAP 遠隔審査の受審を紹介します

ホクレン 訓子府実証農場 農産技術課

JGAPの受審方法として、現地審査と遠隔審査の違いについて紹介します。コロナ感染拡大を背景とした遠隔審査ですが、Web会議システムを活用することで、現地審査と同等レベルで受審できます。

表 1. 現地審査と遠隔審査の比較

	現地審査		遠隔審査	
	項目	金額	項目	金額
費用	維持（更新）審査料	87,000円	維持（更新）審査料	87,000円
	審査員旅費交通費※	30,000円	審査員旅費交通費	0円
	(※道内移動：旭川 - 訓子府間、移動追加料金込)		リモート接続テスト費用	10,000円
	計	117,000円	計	97,000円
審査時使用 機材・システム	無し		○書類審査時 ・PC、スマートフォン ・Webカメラ、マイク（状況に応じて複数） ○現地確認時 ・スマートフォン ○通信環境（光回線とWi-Fi環境等）、システム ・Web会議システム（例：Zoom、Teams等） ・メッセージトークアプリ（例：LINE等）	
意思疎通	現地に審査員がいるため、取りやすい		概ね意思疎通は可能 通信状況で取りにくい場合もあります	
カメラ切り換え	無し		有り（慣れが必要です）	
現地確認	現物を審査員が見て判断		審査員の指示を受け撮影	

審査の流れは、遠隔審査と現地審査は同様です。書類審査はパソコンで、審査会社が指定するWeb会議システム（今回はZoom）を使用し、審査員と各種書類（記録）を「画面共有」しながら行いました。現地確認は、スマートフォンでZoomを使用し、格納庫内の農業機械、農薬庫や圃場（ハウス）等、審査員の指示に基づき撮影（中継）することで実施しました。「Zoom」は、Zoom Video Communications, Inc.の商標または登録商標です。

遠隔審査の要件

遠隔審査は、「ICT機器の発展による審査・認証の業務手法の進歩と、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の感染リスクの回避」を背景としています。審査可能な「農場」の要件も、①COVID-19により政府から移動の制限および自粛が要請されている、②通信環境が整っている、③初回審査ではない、④直前の審査で「管理点と適合基準」における「必須項目」・「重要項目」で審査員からの是正要求が10%未満である、とされています。

遠隔審査は現地審査と変わらない審査

現地審査と遠隔審査の経費・機材面などの違いは別表にまとめました（表1および表2）。

遠隔審査の事前準備では、審査会社と審査当日の進め方などを細かく確認しながらの取り進めとなりました。審査自体は滞りなく、現地審査と同等のレベルで受審できました。

ただし、遠隔審査を受審した次の審査については「現地審査」となりますので、ご留意ください。

表 2. 現地審査と遠隔審査の進め方の違い（ホクレン 訓子府実証農場の受審事例）

